

情をこめて茂るかや

石文汝よねかはくは

雨風ふきて幾とせを

ねむりて狭く暮すとも

銀杏のふかき情には

千代萬世も變りなく

やすく此の世を送れがし

朽ちて竈の灰となり

煙りと消ゆる其迄に

友に答へて

君かつれなきことの葉を

さくたび毎に言葉なし

そは何故と云ひわかす
狭き胸をば痛めつゝ

例へばうすき皮はぎて

造りいてたる鼓かな

強く撲なば破やせん

弱くは響わかざらむ

生れしえにしかへりみば

幸なきわれとなかんかな

頬に笑みをばつくれとも

衣うつくしくかざれとも

さかなき人のさけすみて

語るをさけばわか胸の

波しづかなるひまもなし
世はかくありとしりつれど

わはれ光明の御國をば
たいひとすじに望めかし
心にかけてたのめかし
荒む世のかぜあらくとも

兒童の個性

松本孝次郎

個性といふことは委しく云へば個人性といふことである。即ち人は各特性を有つて居て幾分か異つて居る處があります。兒童もまた早くから已に各特別の性質を有つて居る。之を兒童の個性又は個人性といふのである。

心理學で人の心の話を聞いたり、教育學の方で教育の話聞くのは共通の場合に付いての話を聞くのであるから、是等の人か實際教育の任に當つて見ると、學理の通りに行かぬものであるといふことを知る。何故學理の通りに行かぬかといふに凡て兒童は各個性といふものを有て居るからである、故に教育者は個人性といふことに注意を怠つてはならぬ、そこで個性に付て如何なることを心得て居らねばならぬかといふに先づ個性は如何にして生ずるかといふことである。

家庭の異なるに従つて各異つて居る個性を生ずといふことは勿論であるが同じ家庭に居る兄弟でも同じ精神を有つことは出来ぬ。この原因の主なるものが三つある。

一、身体的の要素